令和４年度 香川短期大学
社会人選抜・『小論文』問題用紙

2021 年のノーベル物理学賞を真鍋淑郎さん（現在の四国中央市出身）が受賞した。真鍋さんは二酸化炭素濃度の上昇が地球温暖化に深く関係することを大気と海洋を結合した物質の循環モデルとして提唱し、その予測モデルを 50 年以上前に世界に先駆けて発表した。このことは、まさに世界が脱炭素社会の実現に向けて協調しようとしている中で、注目を集める受賞であった。また、温暖化に関連して二酸化炭素の 20 倍以上の温室効果をもたらすとされるメタンについては、化石燃料の採掘やごみ埋め立て地からの発生とともに牛のゲップも無視できないというから驚きだ。温暖化対策は SDGｓが定める 17 項目のうちの「13：気候変動に具体的な対策を」や 2021 年 11 月、イギリスで開催された第 26 回国連気候変動枠組み条約締約国会議（COP26）の報道などで身近な話題として取り上げられている。私たちは温暖化対策について国に任せるだけでなく個人のレベルでも実践すべきではないだろうか。

設　問

あなたが考える温暖化対策として「国のレベルで行う温暖化対策」と「個人のレベルで行う温暖化対策」のいずれかをテーマとして選択し、800 字以内の小論文にまとめなさい。

山口県のある先生からいただいた名刺に「幸せます」と書かれていた。「幸せます」とは山口県の方言であり、「助かります。ありがたいです。うれしく思います」を表現する言葉だという。「その箱を取っていただけると幸せます」のように使うのだ。このように日本には、標準語（共通語）とは別に地方特有の方言が存在する。中には、高齢者のみが使っている言葉も数多くあるようで、方言は今後衰退していくとも言われている。

全国から人が集まる会議などで方言が多用されると、意味が伝わらずに混乱するであろうことは容易に想像できる。一方で、香川県のようにコメの品種に「おいで米（おいでまい＝来てください）」、野球のチーム名に「オリーブガイナーズ（がいな＝強い）」など方言をうまく活用することで注目を集めている例もあるが、これは香川県に限ったことではない。

方言には、その地方に古くから脈々と伝わってきた歴史があり、それが時代とともに使われなくなることに一抹の寂しさを感じるのは私だけではあるまい。

設　問

この文章を読んで、方言を題材として小論文のタイトルを考え、800 字以内で小論文を作成しなさい。